

## 1. 研究の背景と目的

アメリカにおける図書館・情報学分野の歴史と研究のトレンドに関しては様々な研究が行われているのに対し、カナダの同分野での研究動向については、日本においても海外においても調査の数が限られている<sup>1</sup>。

Nielsen は、1971年に発足したカナダで最初の図書館・情報学分野の学会である The Canadian Association for Information Science/ L'Association Canadienne des Sciences de L'Information (CAIS-ACSI) の35年の歴史を振り返り、学会のニューズレターや学会議事録、抄録、会員名簿、役員とのインタビューを元に、学会発足の背景や学会の構成、出版物、学会誌等の観点から CAIS-ACSI の変遷について解説している<sup>1</sup>。

Wulfram と Chu は、図書館・情報学分野におけるカナダの研究者の研究内容の動向を明らかにするために、1960年から1988年までの間にアメリカとカナダの図書館情報学分野の雑誌や研究大会で発表された研究論文や学会抄録454件の内容分析を行った。それぞれの論文の主題、著者の所属、発表が行われた媒体について分析を行ったところ、カナダの研究者は主に分類、索引、情報蓄積、情報検索の分野で研究・発表を行っていることが明らかになった<sup>2</sup>。また Wulfram はこの研究の続編として、同じ手法で1989年から2008年までの間に刊行された研究論文や学会抄録726件の内容分析を行った。カナダの研究者による研究発表の件数は増加し、特に情報利用行動の分野で研究が活発に行われていることが明らかになった<sup>3</sup>。

さらに、Nilsen は1973年から2009年までの間に行われた CAIS-ACSI の研究大会における発表内容、発表者、開催場所、発表言語などについてまとめ、研究大会の発展の様子につい

て解説した<sup>4</sup>。

しかしこれらの調査では図書館・情報学の分野における研究の主題の動向が主な焦点となっており、研究戦略やデータの集積方法などの変遷については調査が行われていない。また、これらの研究では調査対象や研究内容の分類方法が様々であるため、日本の図書館情報学の動向に関する研究との比較対照は難しい。

本研究は、1970年代から現在までにカナダ国内で発表された図書館・情報学分野の研究論文をより多角的に分析し、カナダにおける図書館・情報学研究の傾向を明らかにすることを目的としている。研究手法としては2011年に杉内らによって行われた先行研究<sup>5</sup>の分析の枠組みを踏襲し、日本の図書館・情報学の研究動向との比較を可能にすることを目標とする。

## 2. 調査方法

1971年から2014年6月までの間に CAIS-ACSI によって刊行された、Information Science in Canada, CAIS-ACSI Newsletter, CAIS-ACSI Bulletin, Canadian Journal of Information Science/ La Revue canadienne des sciences de l'information のうち、査読制度が確立されている1985年以降の Canadian Journal of Information Science/ La Revue canadienne des sciences de l'information に出版された投稿研究論文を調査対象とした。特集論文、書評、会員名簿、議事録などは調査の対象外とした。1985年から2014年6月までの間にこの雑誌に刊行された投稿研究論文は対象外の投稿を除き合計353件あり、これらに対して①著者、②主題、③研究方法、に関する分析を行った。

著者に関しては、著者の人数(単著か共著か)と第一著者の所属機関について調査した。主題

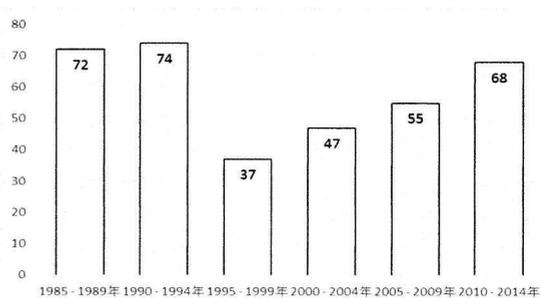
については、杉内らの先行研究<sup>5</sup>で使用された15の主題(情報組織化、情報検索、情報技術、ヒューマンコンピューターインターフェイス、軽量書誌学、情報政策、図書館サービス、管理、学術コミュニケーションと学術出版、歴史、情報利用行動、教育と教授法、メディア、情報学全般、その他)に、「図書館学全般」「図書館・情報学全般」を加え、合計17の主題カテゴリーを設定した。研究方法に関しては、前述の先行研究の枠組みをそのまま踏襲し、研究戦略とデータ収集方法、データ分析方法についてそれぞれ分析した。研究戦略は、実証的研究、概念研究、数理的・論理的研究、システム・ソフトウェア分析・設計、文献レビュー、その他、の6カテゴリー、データ集積方法は、質問紙法、内容分析、引用分析、記録物の計数、ログ分析、二次分析、事例分析、実験室型実験、インタビュー、フォーカスグループ、観察、思考発話法、会話分析、日記法、文献調査、フィールド実験、その他、の17カテゴリー、データ分析方法は、量的分析、質的分析、複合的分析、その他、の4カテゴリーから成る。

### 3. 調査結果

論文数の推移を見ると、1995年から2000年の間に件数が減少したものの、以降は増加を続けている(第1表)。

著者の人数は1985年から1999年までは単著の割合が共著の割合を大きく上回っていたが、2000年代に入ると共著の割合が増加し、2010年以降は単著を上回っている(第2表、第3表)。著者の所属する機関は、全ての年代において「大学」が最も多く、1995年以降常に7、8割を占めている。「企業」「研究所」は1990年代以降激減した。「図書館」は1990年代に減少したものの2000年以降は常に1割程度の割合を保っている(第4表)。

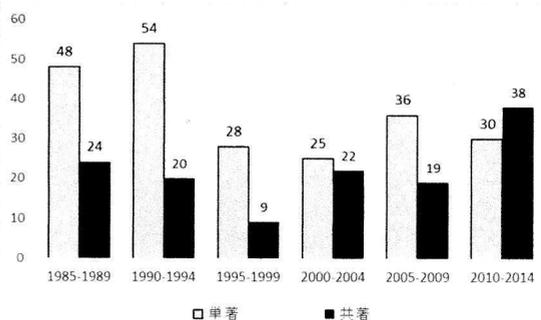
第1表 論文件数の推移



第2表 著者の人数

年	単著		共著		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%
1985-1989	48	66.7	24	33.3	72	100
1990-1994	54	73.0	20	27.0	74	100
1995-1999	28	75.7	9	24.3	37	100
2000-2004	25	53.2	22	46.8	47	100
2005-2009	36	65.5	19	34.5	55	100
2010-2014	30	44.1	38	55.9	68	100
全体	221	62.6	132	37.4	353	100

第3表 単著者と共著者の推移



第4表 第一著者の所属機関の種類

年	大学		研究所		図書館		企業		その他		不明		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
85-89	42	58.4	10	13.9	8	11.1	5	6.9	5	6.9	2	2.8	72	100
90-94	49	66.5	3	4.0	3	4.0	5	6.7	5	6.7	9	12.1	73	100
95-99	33	89.2	0	0.0	1	2.7	1	2.7	1	2.7	1	2.7	37	100
00-04	38	80.9	0	0.0	5	10.6	0	0.0	3	6.4	1	2.1	47	100
05-09	44	80.0	1	1.8	5	9.1	0	0.0	4	7.3	1	1.8	55	100
10-14	53	77.9	3	4.4	7	10.3	0	0.0	5	7.4	0	0.0	68	100
全体	259	73.4	17	4.8	29	8.2	11	3.1	23	6.5	14	4.0	353	100

主題に関しては、1980年代は「情報検索」、1990年代は「情報政策」「情報学全般」「図書館・情報学全般」に関する論文が最も多いが、2000年以降は一貫して「情報利用行動」の割合が最も多くなっている。「情報技術」は1980年代に最も多かったが、以降、激減している。

第5表 研究の主題

年	図書館学												情報学					
	組織化		政策		サービス		管理		歴史		教育		全般		検索		技術	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1985-1989	7	9.7	1	1.4	5	6.9	0	0.0	2	2.8	1	1.4	1	1.4	17	23.6	14	19.4
1990-1994	1	1.4	2	2.7	2	2.7	3	4.0	2	2.7	2	2.7	8	10.8	8	10.8	5	6.8
1995-1999	0	0.0	5	13.4	3	8.1	3	8.1	1	2.8	1	2.8	5	13.4	4	10.8	2	5.4
2000-2004	4	8.5	5	10.5	3	6.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	6.4	2	4.3	0	0.0
2005-2009	6	10.9	1	1.8	3	5.5	1	1.8	2	3.6	1	1.8	6	10.9	1	1.8	0	0.0
2010-2014	12	17.7	3	4.4	9	13.2	2	2.9	1	1.5	1	1.5	2	2.9	5	7.4	0	0.0
全体	30	8.5	17	4.8	25	7.1	9	2.5	8	2.3	6	1.7	25	7.1	37	10.5	21	6.0

年	情報学												図・情全体		その他		不明		合計	
	HCI		計数		学術		情報利用		メディア		全般		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1985-1989	6	8.3	1	1.4	1	1.4	4	5.6	1	1.4	5	6.9	4	5.6	1	1.4	1	1.4	72	100
1990-1994	3	4.0	2	2.7	0	0.0	1	1.4	1	1.4	9	12.2	11	14.9	7	9.4	7	9.4	74	100
1995-1999	3	8.1	0	0.0	0	0.0	2	5.4	0	0.0	3	8.1	4	10.8	0	0.0	1	2.8	37	100
2000-2004	2	4.3	2	4.3	2	4.3	11	23.3	1	2.1	2	4.3	3	6.4	6	12.8	1	2.1	47	100
2005-2009	0	0.0	1	1.8	3	5.5	12	21.8	3	5.5	4	7.3	1	1.8	9	16.4	1	1.8	55	100
2010-2014	1	1.5	2	2.9	3	4.4	13	19.1	1	1.5	2	2.9	6	8.8	5	7.4	0	0.0	68	100
全体	15	4.2	8	2.3	9	2.5	43	12.2	7	2.0	25	7.1	29	8.2	28	7.9	11	3.1	353	100

第6表 研究戦略

年	実証		概念		数理・論理		分析・設計		文献レビュー		その他		不明		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1985-1989	34	47.2	3	4.2	0	0.0	11	15.3	17	23.6	6	8.3	1	1.4	72
1990-1994	20	27.0	5	6.8	1	1.3	4	5.4	12	16.2	23	31.1	9	12.2	74	100
1995-1999	19	51.4	2	5.4	0	0.0	2	5.4	3	8.1	10	27.0	1	2.7	37	100
2000-2004	34	72.3	2	4.3	1	2.1	0	0.0	3	6.4	6	12.8	1	2.1	47	100
2005-2009	32	58.2	3	5.5	0	0.0	2	3.6	10	18.2	6	10.9	2	3.6	55	100
2010-2014	53	78.0	2	2.9	2	2.9	1	1.5	8	11.8	2	2.9	0	0.0	68	100
全体	192	54.4	17	4.8	4	1.1	20	5.7	53	15.0	53	15.0	14	4.0	353	100

第7表 データ集積方法

年	歴史資料		メタ		質問紙		内容分析		引用分析		計数		ログ分析	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1985-1989	0	0.0	0	0.0	4	11.8	0	0.0	2	5.9	0	0.0	4
1990-1994	0	0.0	0	0.0	7	35.0	2	10.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0
1995-1999	1	5.3	0	0.0	5	26.2	3	15.8	0	0.0	0	0.0	2	10.5
2000-2004	0	0.0	1	2.9	2	5.9	4	11.9	3	8.8	0	0.0	2	5.9
2005-2009	0	0.0	0	0.0	3	9.4	2	6.3	2	3.6	1	3.0	0	0.0
2010-2014	1	2.0	2	3.9	12	22.8	3	5.8	2	3.9	2	3.9	4	7.7
全体	2	1.0	3	1.6	33	17.2	14	7.3	10	5.2	3	1.6	12	6.2

年	二次分析		事例分析		実験		インタビュー		FGI		観察		思考発話法	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1985-1989	0	0.0	10	29.4	2	5.9	2	5.9	1	2.9	0	0.0	0
1990-1994	0	0.0	5	25.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
1995-1999	0	0.0	1	5.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2000-2004	0	0.0	1	2.9	0	0.0	2	5.9	1	2.9	1	2.9	0	0.0
2005-2009	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	9.4	0	0.0	2	6.3	0	0.0
2010-2014	0	0.0	1	2.0	0	0.0	3	5.8	2	3.9	0	0.0	0	0.0
全体	0	0.0	18	9.3	4	2.1	10	5.2	4	2.1	3	1.6	0	0.0

年	会話分析		日記法		文献調査		その他		複数		不明		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1985-1989	0	0.0	0	0.0	1	2.9	4	11.8	1	2.9	3	8.8	34
1990-1994	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	2	10.0	20	100
1995-1999	0	0.0	0	0.0	1	5.3	0	0.0	3	15.8	3	15.8	19	100
2000-2004	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	8.8	7	20.6	7	20.6	34	100
2005-2009	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.0	6	18.8	12	37.5	32	100
2010-2014	0	0.0	0	0.0	1	2.0	6	11.5	11	20.9	3	3.9	53	100
全体	0	0.0	0	0.0	3	1.6	14	7.3	29	15.1	30	15.6	192	100

「情報組織化」「情報サービス」は 1990 年代に減少したものの、2000 年以降は増加傾向にある (第 5 表)。

研究戦略は、いずれの年代においても「実証的研究」が最も多かった。1980 年代において多かった「分析・設計」は 2000 年以降減少した。他の研究戦略については大きな増減は見られなかった (第 6 表)。

データ集積方法については、1980 年代最も多く用いられていた「事例分析」は 1995 年以降減少した。1990 年代最も頻繁に用いられた「質問紙」調査は 2000 年に入り減少したが近年また増加している。さらに、インタビューと質問紙調査などといったように複数の手法を用いた研究が 1995 年以降増加している (第 7 表)。

分析方法に関しては、「量的分析」が多くの割合を占め、2005 年から 2009 年に減少したものの、近年また増加している。量的・質的分析の両方を用いた研究も増加の傾向にある。

第 8 表 分析方法

年	量的		質的		複合的		その他		不明		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
85-89	13	38.2	6	17.7	3	8.8	9	26.5	3	8.8	34	100
90-94	10	52.6	1	5.3	3	15.8	4	21.0	1	5.3	19	100
95-99	7	35.0	7	35.0	1	5.0	2	10.0	3	15.0	20	100
00-04	12	35.3	14	41.2	3	8.8	2	5.9	3	8.8	34	100
05-09	8	25	11	34.4	5	15.6	1	3.1	7	21.9	32	100
10-14	22	41.5	14	26.4	11	20.8	2	3.8	4	7.5	53	100
全体	72	37.5	53	27.6	28	13.6	20	10.4	21	10.9	192	100

#### 4. 今後の課題

今後の課題として、データの明確化、Reliability の向上、日本の図書館情報学の研究動向との比較分析という 3 つの点においてこの研究を発展させていく予定である。今回研究対象にした学会誌では、英語と仏語による研究論文が混在しているが、著者の仏語理解能力に限られたものであるために、仏語の論文に関しては主題、研究方法等のデータが不明であるものが残った。翻訳会社のサービスを活用するなど、何らかの方法で仏語論文に関するデータ

を明確にしていきたい。また、内容分析に関しては Krippendorff や Neuendorf が指摘しているように、一定の Reliability の確保が研究結果の信憑性の鍵となっている<sup>67</sup>。今回は著者が全ての投稿研究論文の内容を分析・分類しているが、研究結果の信頼性の向上に向けて、1, 2 人のコーダーを募り、Intercoder Reliability の算出を行いたい。最後に、本研究の結果をもとに、日本とカナダとの図書館情報学における研究動向を比較し、議論を発展させていきたい。

#### 引用文献

- 1 Nilsen, Kirsti. The Canadian Association for Information Science: A look at its thirty-five-year history. *Canadian Journal of Information and Library Science*. 2007, vol.31, no.2, p.163-177.
- 2 Chu, Clara M.; Wolfram, Dietmar. A survey of the growth of Canadian research in information science. *Canadian Journal of Information and Library Science*, 1991. vol.16, no.1, p.12-28.
- 3 Wolfram, Dietmar. An analysis of Canadian contribution to the information science research literature. *Canadian Journal of Information and Library Science*, 2012, vol.36, no.1/2, p.52-66.
- 4 Nilsen, Kristi. Thirty-seven CAIS-ASCI conferences, 1973-2009. *Canadian Journal of Information and Library Science*, 2010, vol. 34, no.2, p.131-160.
- 5 杉内真理恵, 羽生笑子, 上田修一, 倉田敬子, 宮田洋輔, 小泉公乃. 論文から見た日本の図書館情報学研究の動向. *Library and Information Science*. 2011. No.66, p.127-151.
- 6 Krippendorff, Klaus H. *Content Analysis: An Introduction to Its Methodology*. Second Edition. 2003, Sage Publications.
- 7 Neuendorf, Kimberly A. *The Content Analysis Guidebook*. 2002, Sage Publications.